

横のつながりで技術力向上を

コンクリート診断士が総会開く

専門部会設立へ

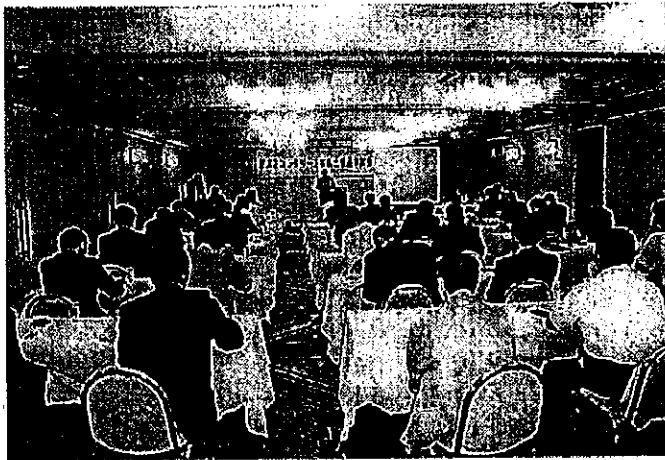
新潟県コンクリート診断士会（会長・丸山久一 副学長）の09年度通常



あいさつする丸山会長

総会が18日、新潟市の万代シルバートホテルで開催された。

この日は会員63人のうち、55人が出席。冒頭、丸山会長があいさつし、「会は社会の発展に大きく寄与するため昨年設立したが、会員の役に立てるよう頑張りたい。当面は横のつながりで診断士の技術力を向上し、社会的な評価が得られるよう取り組む」と述べ、「診断士の価値・存在が認められつつあるが、構造物診断は非常に難しい。造る際の経過、完成後は定期的に点検し、その結果をフィードバックすることが大事。診断士が集まり、情報交換できる機会を増やしていきたい」と話した。



今年度の事業計画などを決めた総会
=18日、新潟市内

議長に副会長の吉田弘氏（ナカノアイシステム）を選出した後、08年度事業報告と09年度事業計画を審議。ともに

原案通り承認した。今年度は、コンクリート構造物の診断技術などに関するセミナーを3回程度開くほか、▽材料▽設計▽施工▽診断―他に開く専門部会を立ち上げ、本格的な活動を始める。ホームページによる診断士会情報の発信、会員数拡大への取組といった広報活動も行う。

総会に続き、加藤大介新潟大学工学部建設学科教授が、「中越地震と中越沖地震におけるRC学校建物の挙動について」をテーマに基調講演。懇親会も開いた。

なお、診断士会は14都道府県で設立済み。全国7209人の合格者うち、登録資格者が6836人。登録数上位は東京都1205人、大阪府592人、北海道452人の順で、新潟県は165人の12位。今後、全国組織の連合会発足の動きもあるという。